

おゆみ野地区遺跡群

古墳時代後期から奈良・平安時代をとおりて営まれた遺跡で合計337軒の住居跡と15棟の掘立柱建物跡が発見され、当時の村落の変遷が理解できました。豪族や寺院などに関連する資料(墨書土器)は少なく、役人の官位を示す帯金具(ベルトの飾り)などが出土しました。



遺跡は過去2回にわたって調査され、旧石器・縄文・古墳の各時代にわたって行われてきました。その中心は古墳時代で、前半期は居住地として、後半期は古墳群が造営されました。うち1基は遺存状態がよかつたらしく江戸時代には三山塚として信仰の対象になっていました。



調査の結果、弥生時代を除く各時代の遺物が認められ、江戸時代の陶磁器も多数発見されました。生産地は肥前(佐賀県)で、日常什器としての染付や少量の色絵磁器・青磁といった高級磁器もみられます。城跡と考えられていましたが、むしろ近世の集落跡のようです。



9世紀後半になると、各地で鉄製農具が生産されるようになります。おゆみ野地区でも高沢・有吉北・大田法師の各遺跡で小規模な鍛冶跡が調査されました。10世紀後半の城ノ台遺跡では粘土探掘坑と土師器焼成窯が発見され、日常什器の甕や坏が生産されています。



古墳時代から継続的に営まれた遺跡で、その主体は古墳時代後期と鎌倉・室町時代でした。中世の遺構としては台地を整形し居住地とした場所(台地整形区画)があり、掘立柱建物跡や柵列・井戸・墓跡などが発見されました。15世紀前半が盛期であったようです。



椎名崎古墳群の中で最も目を引く前方後円墳が人形塚古墳です。その名の由来は、古くから人形をした焼きもの(人物埴輪)が周辺でみられたためです。古墳時代後期の特徴である群集墳(200基以上)の中心的存在であり、その名のとおり大量の埴輪群が出土しました。



12 有吉北貝塚

縄文時代中期に営まれた遺跡で有吉南貝塚とともに、おゆみ野地区における拠点的な位置を占める集落跡です。特に北貝塚は、台地部分が広範囲に調査され、貴重な資料を提供したものとされています。また、斜面部ではおびただしい貝類や魚骨類が投棄されていました。



14 馬ノ口遺跡

おゆみ野の地に古墳が造営されはじめた頃の古墳が3基発見されました。古墳の形は方墳で、この形態は弥生時代の墓制(方形周溝墓)に影響されたものです。他には6基の円墳(後期)が調査され、馬具・鎌・刀子・直刀などの鉄製品や玉類が出土しています。



30 小金沢貝塚

縄文時代の中期末から後期初頭にかけて営まれた集落で、住居跡には出入口の痕跡が認められました。出入口は屋外に設けられ、左右3~4本の支柱によって支えられています。このような住居跡は、その形から柄鏡形住居と呼ばれ、後期初頭の特徴的なタイプです。



32 六通貝塚

縄文時代後期から晩期に作られた貝塚で出土品も呪術的な土偶・土版・石棒、装飾品として玉類・耳飾りなど貴重な遺物がみられました。また、ハマグリ(ハマグリ)の成長線を顕微鏡により観察したところ採取時期は春から夏が主となり、潮干狩りの時期は今も昔も変わらないようです。



34 六通神社南遺跡

縄文時代の到来を告げる遺跡で、出土遺物の多くは槍先(木葉形尖頭器)として使用されたものです。石材には安山岩を用いており、産地同定の結果、畿内の二上山や岐阜県の下呂から運ばれてきたことがわかりました。他には搔器(皮剥器)などが発見されています。



38 大田法師遺跡

旧石器時代の石器群がローム層中から21地点にわたって発見されました。これらの石器群は概ね3時期(文化層)に区分され、第2文化層では狩猟具であるナイフ形石器が同一地点で6点も出土しています。さらに石器を製作した工程を復原できる資料も得られました。



遺跡名	有吉遺跡	古城・小弓遺跡	高沢遺跡	高沢古墳群	生浜古墳群	南二重堀遺跡	鎌取場台遺跡	鎌取遺跡	上赤塚貝塚・古墳群	有吉南遺	有吉城跡	有吉北貝塚	有吉南貝塚	馬ノ口遺跡	城ノ台遺跡	椎名崎遺跡
	椎名崎古墳群A支群	狐塚古墳群	人形塚古墳(椎名崎古墳群)	椎名崎古墳群B支群	椎名崎古墳群C支群	椎名神社遺跡	木戸作貝塚	伯父名台遺跡	今台遺跡	富岡古墳群	春日作遺跡	神明社裏遺跡	小金沢古墳群			
	小金沢貝塚	六通遺跡	姪六通貝塚	姪六通金山遺跡	姪六通神社南遺跡	嬰白鳥台遺跡	嬬御塚台遺跡	姪ムコアラク遺跡	姪太田法師遺跡	姪大膳野北遺跡	嬰大膳野南貝塚	嬬バウチ穴遺跡				